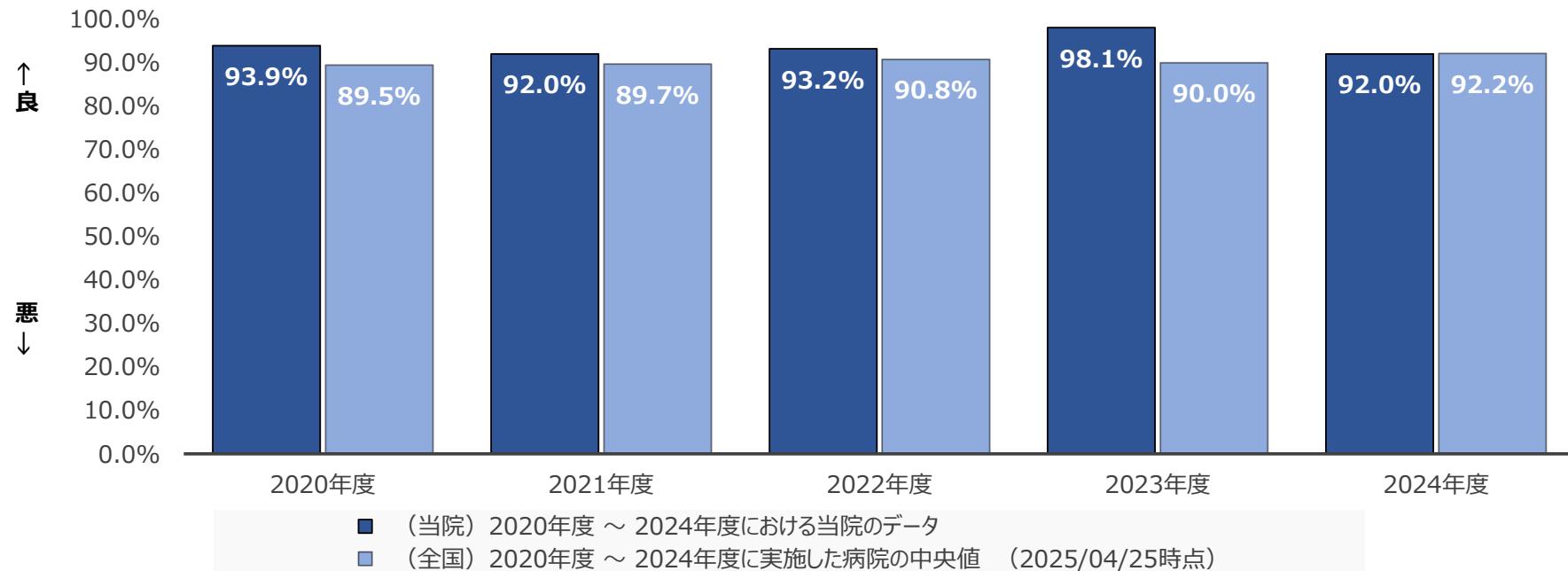


【30】胃癌低侵襲手術率（腹腔鏡）



＜定義＞

(分子) 分母のうち、腹腔鏡手術が施行された患者数(内視鏡手術用支援機器使用を含む)

(分母) 胃癌のUICC治療前ステージI のうち該当する切除術が施行された退院患者数 (内視鏡手術を除く)

＜コメント＞

胃癌のUICC治療前ステージIに対する治療は内視鏡または腹腔鏡による低侵襲手術が行われることが多くなっています。

大きい病変であったり、潰瘍を伴っていたり、低分化型などの癌の場合は内視鏡手術の適応外となり腹腔鏡手術が行われる場合があります。

2024年度当院の腹腔鏡手術率は92.0%で調査参加病院の中央値と同等であり、胃癌低侵襲手術率（内視鏡）と合わせると、胃癌ステージIに対する全低侵襲手術率（内視鏡+腹腔鏡）は調査参加病院の中央値の全低侵襲手術率（内視鏡+腹腔鏡）と概ね同等となります。